

実施日：12月17日	
教科等：特別の教科 道徳	
取組名：全校道徳（「それぞれの思い」『きらめき』より）	
対 象：全校生徒	実施場所：各教室
ア ねらい 多様な性に対して悩むマイノリティの事例に触れ、意見交流をする中で、誰もが生きやすい社会の在り方について考えを持たせる。	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 - 誰もが生きやすい社会とはどのようなものか問いかけ、テーマに対して関心を持たせる。 - 資料1〔別紙②〕の自身の性に悩む人々の意見が書かれた文章を読み、生きづらさの原因について考えさせる。グループワークを行い、自分と他者の考え方を比較したり新たな視点を得たりする。 - 自分の性について悩む人々は、どうすれば生きやすくなるか考えさせる。グループで議論する中で、テーマについて多面的、多角的に考えさせる。 - 資料2〔別紙②〕の周囲の理解の中で、性的マイノリティとして生きる女性の意見を読み、新たな考えをもたせたり、考えをより深めたりする。 - もう一度、誰もが生きやすい社会とはどのようなものか問いかけ、授業を受けたうえで自分の意見がどのように変化したか考えさせる。	
ウ 連携先：家庭	
エ 連携にむけての取組 家庭での会話の中でも社会的マイノリティについて取り上げてもらい、その誰もが生きやすい社会の実現に向けて意識してもらえよう、懇談やオープンスクール、式典などの場で呼びかける。	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 - 日常の学校生活において、職員が自身や生徒の言動などに気を配り、生徒の自尊心や自己肯定感を向上させる。 - 教員向けの校内研修や保護者、生徒対象の講演会を積極的に行い人権意識の向上をめざす。 - 学級活動の時間を使い、自分と他者の関わりや将来の希望について考える時間を設け、明るい展望をもつ生徒の育成に励む。 - 生徒及び教員のアンケートを取り、それぞれの変容を客観的に把握できるようにし、その後の指導等に生かす。	
カ 評価の方法 - 行動観察 - ワークシート、感想	
キ 成果 〔別紙③④⑤〕 - 本校の生徒は、他者との違いに寛容で個性を受け入れやすい傾向にあるが、その姿勢が人を救うことがあるということに気付いた生徒がいた。今回の授業での気づきが、今後の学校生活においても協調性を身に付けさせるきっかけになると考えられる。 - 部落差別や外国人差別など、様々な社会的問題に興味をもち始める生徒が現れた。 - 後日おこなわれたLGBTQに関する講演を、より広い視野をもって聴講することができた。	
ク 課題〔別紙⑤〕 事例と同じような悩みをもつ生徒がいた場合の対応について、不安に感じている教員が一定数いることから、引き続き本実践のような取組を継続する必要がある。	

